

セクシュアル・マイノリティと人権

～性の多様性に関する基礎知識～

1. 「性」ってなんだろう？
2. 性的指向と性自認
3. セクシュアル・マイノリティが直面する問題
4. 誰もが「自分らしく」生きられる社会へ

セクシュアル・マイノリティと人権

1.「性」ってなんだろう？

世の中には「男性」と「女性」しかいない……。長い間、社会ではそれだけが正常であり、そこに当てはまらないものは異常と考えられてきました。

しかし、人間の性（セクシュアリティ Sexuality）は、男と女、二つのパターンに分けられるほど単純なものではありません。

LGBTとは、以下の4つの頭文字をとって組み合わせたものです。

Lesbian (レスビアン) 女性を愛する女性

Gay (ゲイ) 男性を愛する男性

Bisexual (バイセクシュアル) 両性愛者

Transgender (トランスジェンダー) ……

身体と心の性が一致していないため身体の性に違和感を持ったり、心の性と一致する性別で生きたいと望む人

※ LGBT以外にも、様々なセクシュアリティの人がいます。

セクシュアル・マイノリティと人権

2.性的指向と性自認(性同一性)

性的指向(好きになる性)

性的指向(Sexual Orientation セクシュアル・オリエンテーション)とは、自分の恋愛・性愛がどのような対象に向いているのかを示す概念です。性的指向は自分で決められるものではありません。私たちは、異性を好きになるもの(異性愛 Hetero-Sexual ヘテロセクシュアル)と思いがちですが、同性を好きになる人もいれば、好きになる相手の性別にはこだわらない人もいます。また、恋愛感情を抱かない人もいて、どの性別の人を好きになるのかは、人それぞれ違うのです。

同性愛・両性愛は精神疾患(病気)ではありません。

1992年、世界保健機関(WHO)の国際疾病分類・改訂版では「同性愛はいかなる意味においても治療の対象とはならない」として、精神疾患リストから除外されました。

セクシュアル・マイノリティと人権

2.性的指向と性自認(性同一性)

性自認(こころの性)

性自認(性同一性／ジェンダー・アイデンティティ Gender Identity)とは自分の性をどのように認識しているのかを示す概念です。身体は男性で、自分を女性と認識している人、身体は女性で、自分を男性と認識している人、男性、女性、どちらにも当てはまらないと感じている人もいます。

多くの方は、生物学的な性＝「身体の性」と性自認＝「心の性」が一致していますが、「身体の性」と「心の性」に違和感のある人もいます。

トランスジェンダー(Transgender)

「身体の性」は男性でも「心の性」は女性というように、「身体の性」と「心の性」に違和感のある人や「心の性」に沿って生きたいと望む人々をトランスジェンダーといいます。

トランスウーマン MTF	「身体の性」が男性で「心の性」が女性の人
トランスマン FTM	「身体の性」が女性で「心の性」が男性の人

セクシュアル・マイノリティと人権

3. セクシュアル・マイノリティが直面する問題

同性愛者を笑いのネタにしたり、「オカマ」「ホモ」「レズ」など、差別的な言葉をふざけて使ったり、日常的にセクシュアル・マイノリティをからかうような雰囲気のある学校や職場では、当事者の孤独感が強まります。また、身近なところにゲイやレズビアンの人がいるかもしれないという認識のない人が多いため、恋愛に関する話題などは、異性愛を前提にしたものになりがちです。

また、日本では、同性カップルの婚姻、または婚姻と同等のパートナー関係が法的に認められていないため、病院に入院しているパートナーの面会を「家族ではない」という理由で断られたり、同性愛に偏見を持つ大家、不動産業者から賃貸借契約を断られるといった問題等、同性カップルは様々な困難に直面しています。

トランスジェンダー特有の悩みとしては、男女で分かれているトイレや更衣室の問題があります。思春期に自分の望まない身体に変化していくことに絶望感を抱く子どももいます。

セクシュアル・マイノリティと人権

3. セクシュアル・マイノリティが直面する問題

アウトイング(Outing)

家族、友達、同僚から、「レズビアンなんだ・・・」「ゲイなんだ・・・」と打ち明けられたら（**カミングアウト**）どのようにしたらよいでしょう。このようなことは、あなたを信頼しているというメッセージです。真摯にその人の話に耳を傾けましょう。

本人の許可なく、他人に暴露することを「アウトイング」といいます。自分のセクシュアリティを他人に知られたくない人にとって、アウトイングは重大な人権侵害です。本人の了解なしに、決して他人には話さないようにすることが大切です。

国連の性的指向と性自認に関する独立専門家

セクシュアル・マイノリティへの偏見・差別は世界的な問題であり、命の危険にさらされている当事者も少なくありません。世界中に存在する暴力と差別に対処するため、国連人権理事会は2016年の決議で、性的指向・性自認に基づく暴力・差別に関する独立専門家を設置しました。調査のための各国訪問やテーマ別報告書の作成などを行っています。

セクシュアル・マイノリティと人権

4. 誰もが「自分らしく」生きられる社会へ

人間の姿、価値観、感情などが人によって異なるように、セクシュアリティも多様です。誰もが自分のセクシュアリティを尊重され、自分らしく生きることのできる社会が望まれます。もしあなたが、セクシュアリティに関する差別的な言動を見かけたら・・・。

みんなと一緒に笑わない、同調しないというだけでは不十分です。間違っていることは毅然として指摘する勇気も時には必要となります。あなたの一言が、態度が社会をよりよく変えていくきっかけとなるのです。